ボーリング柱状図

調　　査　　名　国道182号　道路災害防除事業（法面対策）に伴う業務委託

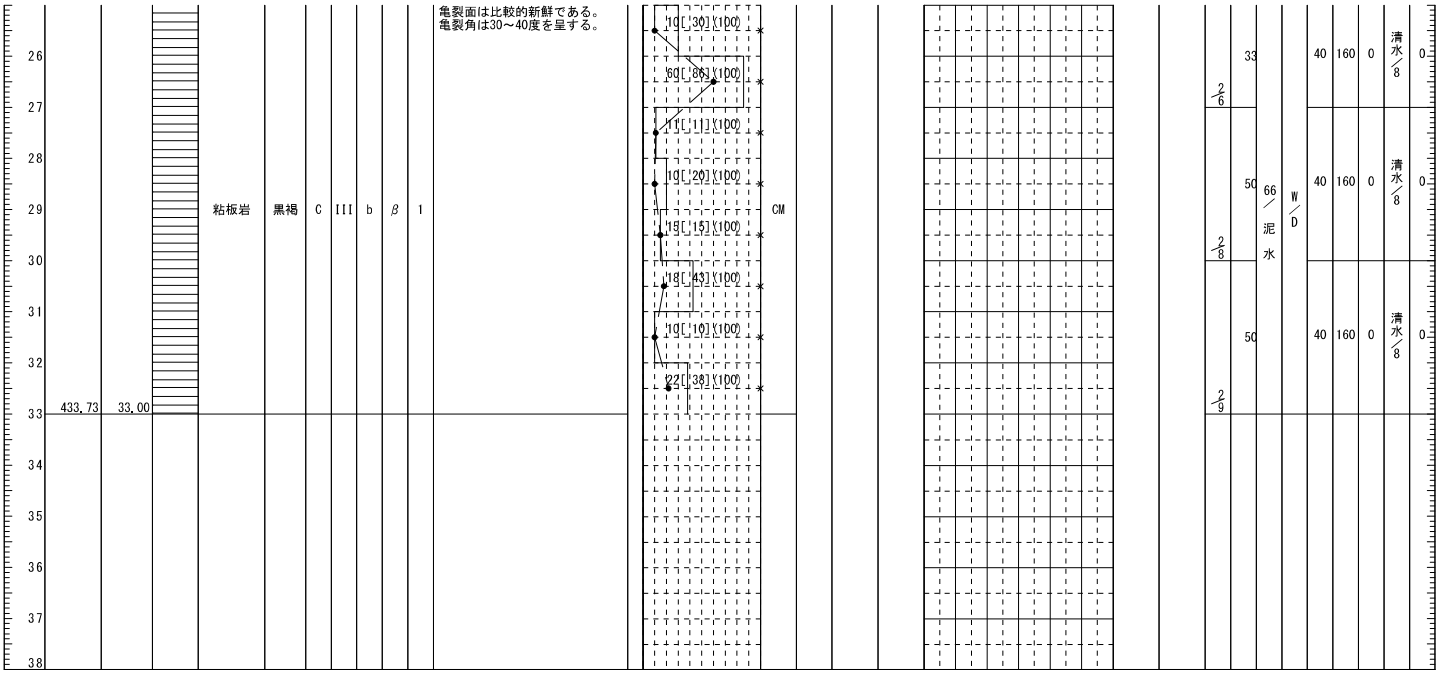
事 業 ・ 工 事 名

ボーリングNo.	5	1	3	3	7	2	5	4	0	0	1

シートNo.　1

ボーリング名	A128B1	調査位置	広島県福山市加茂町外			北緯	34° 37’ 57.8000″
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	平成29年 1月26日～平成29年 2月 9日			東経	133° 18’ 43.2000″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	TP 466.73m	角度	180° 上 下 90° 0° 0°	方向	0北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	40° 鉛直 水平 0° 90°	使用機種	試錐機	東邦製D-0型	ハンマー落下用具	半自動型
総掘進長	33.00m								エンジン	ヤンマーNF80型	ポンプ	東邦製BG-3型

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ×（%） 最大コア長 ●cm RQD ——［%］	岩級区分	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度 m	打撃回数／貫入量 回/cm	N値	原位置試験	室内試験	掘進 掘進月日	掘進速度 cm／時	孔径／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 MPa	回転数 rpm	送水圧 MPa	送水量 l／分	排水量 l／分
1			△△△	崖錐堆積物	茶褐						地表面～GL-0.7m：細粒分を含む砂分主体。 GL-0.7m～：外周を残し岩組織を部分的に確認できる。 礫は、風化著しく脆い。	0［0］(100)			1.15	21/30				48		S/M	30	120	0	無水/0	0
2	464.13	2.60	△△△									0［0］(100)			1.45					48							
												0［0］(100)			2.00	50/10			1/26		86/ケーシング	W/D	20	120	0	清水/10	6
3												2［40］(100)			2.10					34					0	清水/12	7
4												9［0］(100)															
5				風化輝緑岩	暗黄茶	C	III	c	γ	3	全体的にコア肌が褐色に変色している。 白色脈の薄層を多く挟み、脈沿いに亀裂が発達している。 亀裂では、細礫または角礫状となる。 脈の角度は、20～30度を呈する。 掘削水が全漏水する		CL	1/28 4.70										30	160	0	清水/12	0
6	460.23	6.50										8［0］(100)													0	清水/12	10
7												8［0］(100)															
8												13［13］(100)															
9				輝緑岩	暗緑灰	C	III	b	γ	2	コア肌比較的新鮮である。 白色脈の薄層を多く挟み、脈沿いに亀裂が発達している。 亀裂では、角礫状となり若干の流入粘土を含む。 脈の角度は、20～30度を呈する。 方解石の溶脱有り 掘削水は全漏水する。	16［28］(100)	CL										30	160	0	清水/10	0
10												12［22］(100)							1/28								
11	455.13	11.60										21［21］(100)															
12												18［18］(100)		2/2 12.00													
13				風化輝緑岩	白	C	IV	c	γ	2	全体的に短柱状～ブロック状を主体とする。 石英および白色脈の薄層を挟み亀裂が発達している。 白色脈の角度は30度程度を呈している。 亀裂沿いは、細礫を挟む。 GL-12.2～12.4m区間：茶褐色を呈した土砂状となる。 コア詰まり著しい	9［0］(100)	CL	2/3 12.90									30	160	0	清水/8	0
14												5［0］(100)		2/4 14.00													
15	451.73	15.00										5［0］(100)		2/9 15.10					1/30								
16												16［16］(100)		2/8 15.80													
17												6［0］(100)							1/31		66/泥水	W/D	30	160	0	清水/10	0
18				輝緑岩	暗緑灰	C	III	b	β	2	比較的新鮮であるが白色脈の薄層を挟む。 脈沿いに亀裂が発達しており、チップ状～細礫状を挟む。 亀裂角度は20～30度を呈し、高角亀裂も確認される。 高角亀裂には若干の流入粘土有り。	20［32］(100)	CL														
19												6［0］(100)															
20												7［0］(100)							2/1								
21	445.33	21.40										11［27］(100)															
22				風化輝緑岩・粘板岩互層	淡緑灰	D	IV	c	ε	3	ブロック状～短柱状コアを主体としている。 白色脈の薄層が分布しており、GL-22.5m付近に褶曲が確認される。 全体的に破砕されており脆弱となっている。 破砕区間：GL-21.6～22.0m, GL-22.8～23.5m	17［17］(100)	D														
23	443.23	23.50										7［0］(100)							2/2								
24				粘板岩	黒褐	C	III	b	β	1	比較的新鮮であり白色脈の薄層を挟む。 脈沿いに亀裂が発達しており短棒状コアを主体としている。	10［10］(100)	CM														
25												10［10］(100)							2/3								
																			2/4	37			30	160	0	清水/8	0


亀裂面は比較的新鮮である。
亀裂角は30～40度を呈する。
433.73
33.00
粘板岩
黒褐
C
III
b
β
1
CM
10[30](100)
60[86](100)
11[11](100)
10[20](100)
15[15](100)
18[43](100)
10[10](100)
22[38](100)
2/6
2/8
2/9
33
50
50
66/泥水
W/D
40 160 0 清水/8 0
40 160 0 清水/8 0
40 160 0 清水/8 0